



発行所
財団法人漁船海難遺児育英会
東京都千代田区内神田
2丁目2番1号
鎌倉河岸ビル内
電話 03(256)1981
03(256)8394
印刷 (株)連合印刷センター
電話 03(582)8541

育英会設立十五周年 記念特集



十五周年の 喜びと感謝

財団法人 漁船海難遺児育英会
理事長 鈴木善幸

育英会は、十月二十九日で設立十五周年を迎えます。東京・代々木の国立オリンピック青少年センターで、はじめての「漁船海難遺児を励ます全国のつどい」を催した十周年（昭和五十五年）が、昨日のことに思い出されます。

さらに運動の 充実を

漁船海難遺児を励ます全国協議会

会長 宮原九一

財団法人漁船海難遺児育英会の設立十五周年を心からお祝い申し上げます。今、私の手もとに「だっこしてもらいたかった」という作文集があります。これは十年前、育英会設立五周年の折に出版された海難遺児と母親の作文集ですが、これに作文を寄せた子供達達、それぞれ立派に成長されていると思います。海難という不幸にもめげず、子供さんを励まし、生活を闘って来られた母親・ご遺族の皆さん、本当にご苦労さまでした。

昭和四十四年、ある地域の漁協婦人

実が図られていますが、教育費が年々

会が少ない私にとり、本紙に投稿くださる皆さんの声や、五年ごとに編纂されてきたこの文集が、どれほど強い「きづな」になっているかわかりません。

さて、漁船海難遺児を励ます運動が、漁業界の自主的な総意から生まれ、育てられて十五歳に達したと思うと、誠に誇り得て、慶びに堪えないところであります。

この育英事業は、奨学生数がすでに八千人に達しようとしており、これら奨学生に対する学資給与金並びに貸与金等の総額が十億円を越えております。また、事業運営の基盤も、年々増強され、事業内容の質的向上も進んでおります。

顧りみて、ここまで御支援賜った方々に衷心よりお礼申し上げる次第であります。

ただ一つ気になることは、昨年、本年と、海難等の事故が増えているようにみられることです。これ以上、悲しい思いでくらす家族を出さないことも、海難遺児を励ます運動の大きな目的であります。関係者各位の自覚をお願いしてやみません。

増加する中であって、事業改善のための基盤づくりが必要なのは言うまでもありません。今進めている第四次募金運動や「励ましおじさん」もその一部であり、引き続き、広くご協力をお願いするものです。

育英会設立十五周年・励ます運動十六周年の機会に、発足時をふり返ることも意義のあることと思います。

発足の動機は、①社会保障の谷間の下で、仲間の遺した子弟・遺族を自主的に支援し励ます②海難の絶滅を期すことであつたと思います。そのことから見れば、今後、募金運動の輪を一層広めること、励ます集い等「励まし」の方法を充実することが必要です。そして、海難が後を絶たないという現実——いかに海難等事故を少なくするかが、運動の中心となってきた漁業関係者に残された、大きな取組み課題だと考えます。



皆さんへの期待

水産庁

長官 佐野宏哉

財団法人漁船海難遺児育英会設立十五周年記念のこの紙面をお借りして、皆さんに申し上げます。

周囲を豊かな海に取り囲まれた我が国では、古くから漁業が盛んに行われ皆さん方のお父さんを始めとする多くの方々の御努力により、今日の世界一の水産国としての地位を築き上げてきました。しかし、この海という大自然は、私達に大きな恩恵を与えてくれる一方、時として私達人間の力では抗しきれない猛威を奮い、尊い人命を奪い去ってしまいますことも悲しいながら事実です。皆さんのお父さんは、尊いお仕事に携わっておられるさなか、このような不幸な災害に遭われ帰らぬ人

国では、古くから漁業が盛んに行われ皆さん方のお父さんを始めとする多くの方々の御努力により、今日の世界一の水産国としての地位を築き上げてきました。しかし、この海という大自然は、私達に大きな恩恵を与えてくれる一方、時として私達人間の力では抗しきれない猛威を奮い、尊い人命を奪い去ってしまいますことも悲しいながら事実です。皆さんのお父さんは、尊いお仕事に携わっておられるさなか、このような不幸な災害に遭われ帰らぬ人

お父さんが逝かれたことはほんとうに悲しいことですが、この試練を乗り越え、将来社会人として立派に成長してこそお父さんもお喜びになることとお祈りいたします。

漁船海難遺児と母の文集

「父さん、大きくなったよ」

を楽しみにお待ちください。

育英会の文集は、これが第三集目になります。第一集は、昭和五十年の設立五周年記念「だっこしてもらいたかった」でした。第二集は「母さんの光る汗」で、昭和五十五年の設立十周年記念文集です。このように、育英会の文集は、五年ごとの記念文集として制作されております。

第一集から第三集までに応募された

きくなったよ」は、育英会設立十五周年記念事業のひとつとして制作するもので、記念日の十月二十九日に発刊されます。

この文集には、奨学生五十四名、母・祖母一八名の応募をいただき、また、表紙絵も文中カットもすべて応募された作品ででき上がっております。勉強やクラブ活動に励んでおられる奨学生の皆さん、また、多忙な毎日を送っておられるお母さん方、御応募本当に有難うございました。文集がどく

思います。お母さんや御家族の方々、皆さんの成長を心から応援して下さい。多くの方々への感謝の気持ちを忘れずに、勉学にまた勤務にいそしみ、皆さん自身の人生の大航海を乗り切られるようお願いいたします。

次に、漁業関係の方々はこの紙面をお借りしてお願い申し上げます。御承知のとおり、我が国漁業を取り巻く情勢は、誠に厳しいものがあります。この中であって、我が国漁業は、国民の食料の安定供給という重大な使命を果たしてきております。しかしながら、この重大な使命を果たすに当たっては、まず何を置いても、我が国漁業にとって貴重な財産である漁業者の生命の安全を図ることが肝要であります。事故のない漁業こそ我々漁業に関係する者の切なる願いであり、重要な課題であります。今後とも、なお一層の御努力を切に要望する次第です。

海難により逝去された方々の御冥福をお祈りいたします。

多くの方々にとっては、これら文集がそれぞれ生きぬいてこられた人生の歴史の一頁となつていくとともに、育英会にとっても貴重な歴史です。

「父さん、大きくなったよ」は、設立記念日の十月二十九日から書店で、市販されます。最寄りに書店がない場合は次の出版社にお申し込みください。○定価一、〇〇〇円・送料二五〇円 ○海文堂出版株式会社 〒112東京都文京区水道二一五〇四 電話東京〇三一一一五―三三二九二

（出版社は、売上げ金の一部を本会へ寄付されます。）

漁船海難遺児

チャリティー・イベント

新鮮な海産物の産地直送 特別バーゲン!!

開催日

昭和六十年十月二十日(日)
午前十時～午後五時

場所

東京・代々木公園
NHKホール前遊歩道

漁船海難遺児を励ます全国協議会と

育英会が主催して開催します。イベントは、昨年も十一月に行いましたが、本年は育英会設立十五周年でもあるので、とくに漁協系統や水産団体などの協賛をいただき、昨年とは趣向の変わった海産物の特別バーゲン販売を行います。この売上げ金の一部は、育英会に寄付されます。東京周辺の皆様のお越しをお待ちしております。

こどもは 母の生きる支え

記録映画監督

斉藤 実

私の職業は、記録映画の監督。社会の犠牲者となった人々を記録映画に撮影、不幸がこの世から無くなるようにその原因を究明、その予防手法を追求している。特に力を注いでいるのが海難防止と交通安全。



育英会創設期の 思い出

元漁船海難遺児育英会事務局長

深沢 力三

わたくしが、永年勤め続けた水産庁をやめて育英会のお世話になったのは、昭和四十六年六月、育英会設立の八ヵ月あとである。

だから、設立に至るまでの全漁連、漁協婦人部それに全日海、漁船労働協会のみなさんのご苦労は、あとでしみじみ知った次第である。

当時は第一期漁協系統募金運動中であり、基金の積み立てで一億円余りであり、年額四千万円に近い学資金の給与を行っていた。

小学生一人月五百円、中学生月千円、高校生二千円の給与は少額でも、学資金を生み出す基本財産の造成が間に合

海が荒れているけど遭難しないだろう、と自分本位な考えで出漁し遭難する。海水が甲板をザブザブ洗うほど荷を満載しても大丈夫だろうと航海し、時化に遭って遭難する。車も同じこと、信号のない交差点、車の少ないところから一時停止をしなくても大丈夫だろうと考えて、一時停止を怠け出会う頭の衝突事故を起す。

反対に、この荒海を出漁したら、こんなに荷を積んだら、遭難するかもしれないと思えば、無理な航海はしなくなる。信号のない、車の少ない交差点だけど車が来るかもしれない、子供や自転車の飛出しがあるかもしれないと考えれば、どんなドライバーだって一時停止をするようになる。

結局、「だろ、航海」「だろ、運転」をやめ、「かもしれない航海」「かもしれない運転」に徹することが、海難を防ぎ、交通事故を防ぐ基本である。さらに一歩進めて、海の場合は安全な航海をしているつもりでも、海は時として急激に変化するのだから……と考える

子供達、父を亡った哀しみのなかで、母と子が逆境を乗り越えて行く健気な姿、総ての遺児家庭の姿が見える気がした。

「サッカーボールがほしい」、「自転車があれば……」という子供らしい声も聞いた。

何とかしなければと、募金の遅れに第二回漁協系統募金が順調に進み、水産関連業界への寄付金募集めぐり、街頭募金に一段と熱がこもった頃、日本自転車振興会から五ヶ年間、総額一億円の補助を受けたのも、海運、造船業界等から一億円の寄付を受けたのも昭和四十七・八年のことであった。

さらに国の指導を得て奨学金貸与制度が実施されたのは四十九年だったと思う。

漸く育英事業が軌道に乗り、奨学金の増額が実施された頃、わたくしは健康を害し、昭和五十三年暮れに育英会勤務七年余りで退職した。

勤務七年余りで退職した。

れば、救命ゴムボートの操作方法等も出漁前に全船員がマスターするようになる。

海難の原因、交通事故の原因を究明するうち、必然的に海難遺族、交通遺族にお会いするようになった。海難遺族の場合は、自転車や日本を一周して、岬の先端まで訪ね歩いた。お会いしたお母様のすべてが、「子供が生きる支えだ」と語ってくれた。だから、お母様たちは、子供が病気になる、自分が病気になる以上は苦しむ。

海難遺児の諸君！いつも明るく元気でいてくれたまえ。それが一番の母さん孝行だ。病気になる、交通事故に遭うな。信号のない車の少ない交差点、車は来ないだろう」と思いつて飛び出すと車にはねられることになる。停車中の車の前後から、「車は来ないだろう」と思いつて飛び出して車にはねられ、た子供も少くない。歩く時も自転車に乗る時も「車が来るかもしれない」と考えること。君たちはお母様たちの生きる宝なのだ。

のボランティアとして、ゲートボールの指導に毎日を通して。

わたくしも七十歳になり一応老人の仲間に入った。

かつて、渚の海難慰霊碑の前で海に落ちる夕日をながめている老漁夫の深く刻まれたしわと淋しそうな姿を見た。第一回採用の奨学生は、既に三十歳を超えているだろう。

祖父や父のあとを継いだらうか、いま、母親は息子夫婦や孫にかこまれて楽しい老後を送っているだろうか。苦しさの連続であった育英会勤務七年は、わたくしに取って最も充実したときであった。

自分が生まれ、父が他界してはや十五年たちました。

ここにはやと書きましたが、母にとってこの十五年、はやだったのではありません。自分が少しずつ強くなってきた人々へ、ありがと。



遺児との出会い

株式会社トリノ

赤平 正健

育英会発足十五周年、心からお祝い申し上げます。

私が遺児の皆さんのことを初めて新聞で知ったのは、確か育英会が発足する以前だったと記憶しています。毎日の食生活に欠かせない海の蛋白源を漁民の皆様が頼っているが、都会のど真中に住む私は、それまで、不幸にして遺児となられた子供さん達の存在を全く知りませんでした。

育英会が発足して間もなくの頃、機会を得て事務所に向いました。折角、育英会だよりをいただきました。投稿欄に「同じ遺児でも、私達のは殆どの人が知らない」と云う一行があり、その言葉がどうしても脳裏から離れま

この一行の言葉に何とか応えたいとまず始めましたのが、自分の店を利用し、遺児達の絵を集め、その絵を通じて一人でも多くの人に遺児の存在を知ってもらおうということでした。しかし絵を集めるということは大変なことだ、育英会だよりは何回も掲載していただき、ようやく一年がかりで二十数点を集めることができました。

また、海のない県からPRしたいという希望もあり、埼玉県蕨市の全面的なご協力を得て、一週間作品展を開催することもできました。

こうして、絵を通じ、遺児達との手紙を中心とした交流がはじまりました。学校の進路のこと、日常のできごと、

東京に行ってみたなど——開封する手紙からは手のぬくもりさえ感じられます。春休みに遺児達をお招きしたこともあります。二泊三日のかけ足の東京めぐりでしたが、友達のように接してくれる遺児達を見て、本当によかったと思ったものです。

また、母子家庭の現実を知るべく、直接伺ったこともあります。父親の役をお母さんが兼務している姿に頭の下がる思いをしました。

十五年、十五歳

岐阜県立岐阜商業高等学校

1年 林 由貴子

文集「父さん、大きくなったよ」から

祖母がいてくれたこともありますが、何よりも母は明るい人で、いつも家の中は笑いでいっぱいでした。けれど今思えば、その明るさの裏の苦しみを隠していたのかもしれない。もしそうならば、これまで片親のハンデイを感じずにきたことを、母に感謝したいと思います。

自分が生まれ、父が他界してはや十五年たちました。ここにはやと書きましたが、母にとってこの十五年、はやだったのではありません。自分が少しずつ強くなってきた人々へ、ありがと。

自分が家族を助ける一員となりたいと思います。これから私達家族をよろしく願います。

最後に父へ
あなたの写真の前で
母の白髪が増えてゆきます。

昭和六十年度 第二回願書受付 十月末日まで



母親になって

卒業奨学生

水口 千賀子

(写真は千賀子さんと有永ちゃん)

私が、母の手一つで育てられるようになって、もう十三年になります。父が遠い人になってからは、母は愚痴ひとつこぼさず、ただ、ただ私達を育てるのに無我夢中だったようです。そんな母に、私は甘えてばかりいたようです。

この場を借りて、「かあさん、今まで大変でした。ありがとうございます。」

そんな私が、社会に出て二年余りで強引に結婚をし、一児の母となったのが昨年の四月です。出産当時は仕事をやめ育児に専念しましたが、仕事先がなかったで、また約八ヶ月ばかり働き

てくれることは、なんともいえない安心感があります。こんな私が、有永から「ママ」と呼ばれると、くすぐったい、そして怖いような気にもなりますが、いつまでも甘えているわけにもいかならないと思います。自分が親になって、親の偉大さを感じるこの頃です。母親という任務の重さに負けず、自分達のペースで、主人と共に人生を歩いていこうと思います。そして苦勞して育ててくれた母を目標にして……。

父が亡くなったことにより私の人生が、どのように変わったか私には知るすべもありませんが、時折、父が生きていたら、私の人生はどうだったのかなあと思うことがあります。しかし、今の私は、あまり考えても仕方ありません。それよりも、今のこの時間を大切に有意義に生きていきたい。そして、すこしでも社会のために役に立つことが出来たらと思っています。

宮崎県南那珂郡北郷町
郷ノ原乙一七三一
友原住宅
四九一十一二号

奨学生の皆さんへ

古河電気工業株式会社

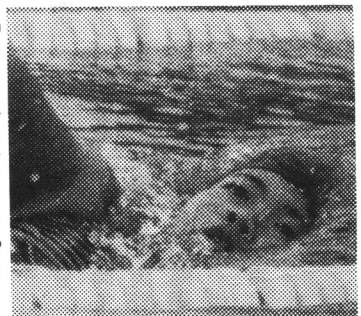
顧問 鈴木 二郎

私ハ大正ノ初年ニ、余リハヤラナイ町医者ノ子トシテ東京ノ浅草デ生レマシタ。当時ハ毎日ノヨウニ近クノ魚ヤサシガ品書キシタ終木ヲ持ッテ御用キキニ来マシタ。ソシテソノ頃ハ、今ノ様ニ冷蔵ノ状態ガヨクナイノニモカカラズ、今ヨリズート美味ノ魚ガ食ベラレタヨウナガシテイマス。

私ハ小学生ノ頃ハ毎年夏冬ノ休ミニハ父ノ郷里デアル埼玉ノ深谷ノ村ヘ行キマシタ。ソノ祖父母タチノ家ハ、ソノ土地デ真中ヨリイイ生活ヲシテイタ家デスガ、魚ト言エバ冬正月ノ時ニ塩鮭ヲ酒粕デ煮テ食ベル以外ニハ殆ド口ニスルコトハナイノデス。

コノコトハ魚ニカギラナイノデス。アラユルモノガ沢山ニシカモ新ラシク

ガンバレ!! 若きスイマー



鳥取県立八頭高等学校
1年 村田玉世さん

「父さん、大きくなったよ」に、「なき父に活躍望む」という題名で応募さ

人類みな兄弟

定価一、〇〇〇円(講談社)

毎年学資給与事業に補助金をいただいている日本船舶振興会笹川会長の「新・親孝行のすすめ」など人生へのヒントを盛り込んだ書

育英事業主要年表

れた鳥取県の村田玉世さんは、九月十六日から開催された「わかとり国体」にバタフライとメドレーリレーの選手として出場しました。成績は残念ながら入賞できませんでしたが、健闘をたたえたいと思います。すでに来年の国体の水の世界で父に見守られて、力一杯生きていると書いています。若きスイマー!!

45	8	31	財団法人設立準備会
9	25		設立発起人会
10	29		文部・農林両大臣、財団法人漁船海難遺児育英会設立を許可
49	4	1	寄附行為第四條に「奨学金の貸与」を加える
10	29		設立五周年記念文集「だっしつもらいたかつた」発行
51	4	1	学資給与中学生の月額一、〇〇〇円を、一、五〇〇円に、小学生の月額五〇〇円を、一、〇〇〇円に増額
53	4	1	入学記念品贈呈の額一、〇〇〇円を二、〇〇〇円に増額
54	4	1	育英会機関紙「育英会だより」第一号発行
53	4	1	入学記念品の額二、〇〇〇円を五、〇〇〇円に増額
54	4	1	奨学金貸与月額三、〇〇〇円を五、〇〇〇円及び理事長が認めるものに七、〇〇〇円に増額
55	4	1	学資給与中学生の月額一、五〇〇円を二、五〇〇円に、小学生の月額一、〇〇〇円を二、〇〇〇円に増額
8	30		入学記念品の贈呈額五、〇〇〇円を一五、〇〇〇円に増額
8	29		学資給与等の対象者に幼児(幼稚園・保育園の四歳・五歳児)を加える
10	29		学資給与幼児・小学生の月額二、〇〇〇円を三、〇〇〇円に増額
56	4	1	入学記念品の贈呈額一五、〇〇〇円を三〇、〇〇〇円に増額
58	4	1	奨学金の貸与月額五、〇〇〇円、七、〇〇〇円を一〇、〇〇〇円に増額
59	4	1	設立十周年記念漁船海難遺児交流の夕べ(於・国立オリンピック青少年センター)
60	4	1	設立十周年記念日
10	29		映画「あしたの海」、「全国のとどろき」試写会
			漁船海難遺児と母の文集「母さんの光る汗」発行
			奨学金貸与高等専門学校在学者の貸与期間を四学年・五学年までに延長
			高等学校入学一時金を新設し、その額一〇〇、〇〇〇円と定める
			高等学校に、専修学校(修業年数二年以上の課程に限る)を含むこととする
			学資給与中学生の月額四、五〇〇円を五、五〇〇円に増額
			学資給与中学生の月額五、五〇〇円を六、〇〇〇円に、幼児・小学生の月額四、〇〇〇円を四、五〇〇円に増額
			学資給与等の対象者に盲学校、聾学校、養護学校の高等部在学者を奨学金貸与の対象者から移す
			学資給与幼児・小学生の月額四、五〇〇円を五、〇〇〇円に増額
			新たに中学校入学記念品を贈呈することとし、記念品の額を一〇、〇〇〇円と定める
			奨学金貸与月額一〇、〇〇〇円を一五、〇〇〇円に増額
			設立十五周年記念日
			漁船海難遺児と母の文集「父さん、大きくなったよ」発行

